

25. 肝予備能評価における ^{99m}Tc -GSA 肝シンチグラフィの有用性: ^{99m}Tc -PMT, ^{99m}Tc -Sn コロイドとの比較

秀毛 範至 油野 民雄 中嶋 憲一
横山 邦彦 利波 紀久 久田 欣一
(金沢大・核)
種井 政信 寺田 光宏 鵜浦 雅志
小林 健一 (同・一内)

代償期肝硬変 17 例, 脂肪肝 3 例を対象に, ^{99m}Tc -GSA, ^{99m}Tc -PMT, ^{99m}Tc -Sn コロイド肝シンチグラフィを施行し, 肝の時間放射能曲線の解析より得られる定量値と肝機能検査値との相関を検討することにより, 3 つの肝シンチグラフィの肝予備能評価における有用性を比較した. HPT, ALB, ICG テストの結果と最も良好な相関を示したのは, ^{99m}Tc -GSA の肝クリアランスであり, 総合的な肝摂取を表す指標として有用であった. モデル解析により GSA の肝摂取を肝血流, リセプタ濃度, 親和性の 3 つの因子に分解可能であり, 肝血流と親和性は, 肝硬変重症度と有意な相関を示した.

26. 甲状腺 I-131 治療における有効半減期と治療効果の関連

中塚 豊真 松下 智人 豊田 俊
野本 由人 加藤 憲幸 中川 毅
(三重大・放)

目的, 対象および方法: 甲状腺腺癌の甲状腺全摘後の I-131 内照射治療に際し, 26 症例 48 病巣について I-131 投与後 4, 11, 18 日目の摂取率を測定し, 有効半減期を算出し, 治療効果との関係を検討した. 1 回目の治療時に比し, 2 回目の治療時の摂取率が 1/20 以下の時に 1 回目の治療を有効とした.

結果: 27 病巣 (頸部 23, 肺 3, 眼窩 1) が有効で, 21 病巣 (頸部 13, 肺 8) が無効であった. 有効治療例の I-131

有効半減期が, 無効例の半減期に比し有意に短かった. (表)

考案: 有効半減期が短い病巣は, ヨードの turnover が速い分化型であり, 病巣の単位重量当たりの摂取率が高いため治療効果が大きかったと推定された.

Outcome of Teff of I-131 uptake by tumor in 48 lesions

Site	Effective therapy		Non-effective therapy		P value
	No.	Teff (days)	No.	Teff (days)	
Neck	23	2.41 $\pm$ 0.89*	13	4.77 $\pm$ 2.51	<0.01
Lung	3	3.43 $\pm$ 0.49	8	7.23 $\pm$ 2.00	<0.05
Total	26	2.48 $\pm$ 0.93	21	5.70 $\pm$ 2.62	<0.001

*Mean $\pm$ S.D.

27. I-131 治療において胸腺の非特異的集積を認めた甲状腺癌の 1 例

道岸 隆敏 秀毛 範至 横山 邦彦
利波 紀久 久田 欣一 (金沢大・核)
水上 勇治 (同・病理)
松井 修 (同・放)
渡辺 洋宇 (同・一外)

甲状腺癌の I-131 治療における胸部の非特異的集積は, 消化管に起因する場合や, 皮膚の炎症や汚染以外は, 異所性の甲状腺組織に由来すると従来考えられていた. 胸腺の非特異的集積は, 1979 年の 2 例の報告以降見あたらない. 胸腺の非特異的集積と確診された 1 例 (19 歳, 女性) を経験した. I-131 が前胸部に集積し, 各種画像診断にて前縦隔腫瘤を認め, 胸腺と考えられた. 手術にて胸腺の過形成が確認され, 転移は認められなかった. I-131 治療にて認められる前胸部の集積が転移でなく, 胸腺の非特異的集積である場合があることを考慮する必要がある.